

## イギリス UWCアトランティック 西尾地博

留学期間：R5.8～R7.5（2学年間）

私がイギリスの UWC アトランティックに来て 2 年目の 3 学期を迎えました。迎えたといっても歓迎はあまりできません、というのもこの学期は国際バカロレア生にとっては一番忙しい学期なのです。英語の論文や理数科目の自主研究に加え、大学に提出するエッセイ、STP という科目ではグループで地域のフードシステムに介入するプロジェクトをやるということを三月くらいまで行っていきます。しかしストレスについて言えば、私の場合二年生になってかなり楽になったと思います。今年度のルームメイトはイギリス人、ネパール人、中国人と、若干アジア系が多いかなという印象ですが、文化的に近いとより細かい違い、例えばメッセージアプリでの返信の早さなどを意識するようになります。ちなみに性格的に似ていると感じるのは意外とイギリス人です。ユーモアのセンスや礼儀正しさみたいなものが近いと感じます。今年度は自分で選んだ人と同じ部屋に住んでいるので、部屋でのトラブルも少なく、落ち着いた日々を過ごしています。二年生になって英語に慣れ、コミュニケーションには困らないのもストレスがあまりなくなった要因だと思います。特に入学したてで緊張している 1 年生を見ると「自分も去年は緊張していたな」と思ってなんとなく安心します。

UWC にいる以上、不安なイベントも起こります。9 月に学校集会で、中東出身で家族が内戦に巻き込まれているという話を何人かの生徒がしました。私のレバノン人の友達もその一人で、親戚の家から 5 キロほどの場所が爆破されたと、その日はただただ彼らの生存を願うだけだったと語っていました。その後、11 月には去年卒業した友達に会いました。彼は親が官僚ということもあり、去年までは自国の難民キャンプで難民の人々に食べ物を配給する立場だったのですが、国内のデモが原因で今では自分がイギリスの難民キャンプで食べ物をもらう立場になったと言っていました。日本にいた時にはこんな話をリアルにそして身近に感じることはなかったので、UWC に来てから世界で起きる問題がどんどん自分ごとになっていると感じます。自分ごととして考える範囲には物理的なものと属性的なものがあると思っています、例えば、日本にいた時は受け取るニュースの中でも特に福井のものを自分ごとと捉えていましたが、ここに来て日本のニュースというだけで当事者意識を持つようになりました。属性的な自分ごととしては、食べ物関連の授業を選択している身として、世界の食料問題に常にアンテナを張るようになりました。UWC に来て色んなものを身近に感じるようになりましたが、良いことばかりではありません。世界の病原体も身近になります。様々な国から生徒が集まって寮生活をしている以上、体調不良は避けられない問題で、私も 9 月ごろに体調が優れず、授業を休まざるを得なかったり、課題の提出が遅れたりするといったことがありました。それを受けて、私は体調管理に力を入れることにしました。栄養について少し学び、給食では野菜を多くとり、ジムで定期的に運動することを始めました。それから体調は少しずつ良くなっているのでこれからも続けたいと思います。

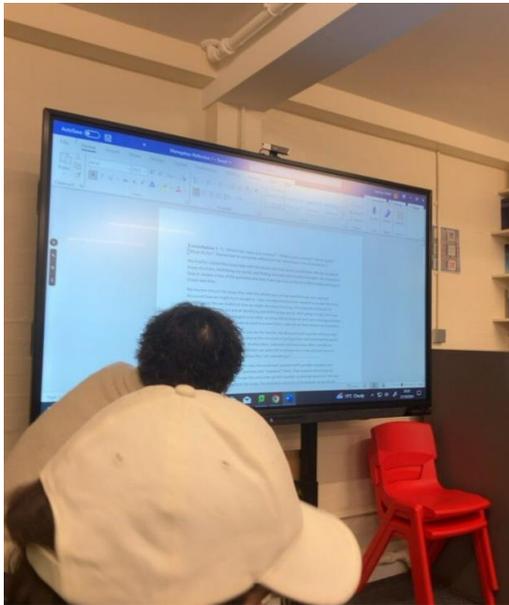
2 年生になったということで自分が残りどれくらいこの学校にいるのかを考えてみたのですが、たったの 5 か月しかないことに気づきました。日本の友達と違って、みんな卒業後は世界中でバラバラになってしまうので、後悔のないように友達との時間を大切にしたいです。卒業が近づくにつれ模擬試験や試験勉強で 2 年生は忙しくなってしましますが、ご支援頂いている方々への感謝を忘れず、上手に時間と体調を管理して丁寧に努力を重ねていきたいです。引き続き応援よろしくお願いたします。



英語の授業の様子



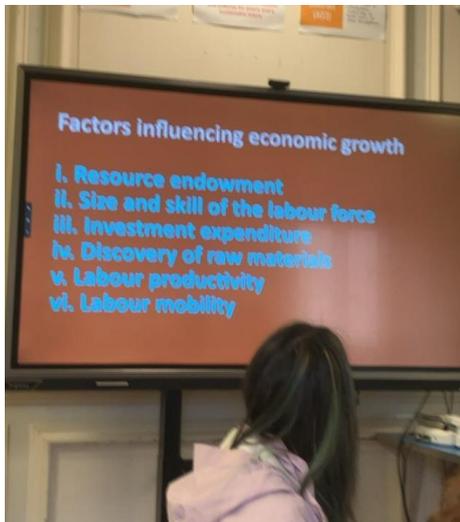
電気を体を通して火をつける実験



TOKの授業の様子



STPのみんなと



経済の授業の様子



STPの一環で親子丼を作りました。



ハロウィンでかぼちゃを彫りました。



みんなの手形を残しました。



ルームメイトと